

1 60分のできる 実践活動検討

～事例からつながりを考える～

事例

とある新任委員物語

このコーナーでは、毎号皆さんに身近な事例を掲載していきます。第4号では、新任委員の鈴木さんの活動経験を通して、地域での民生委員の役割や立ち位置などについて話し合ってみてください。

登場人物及びストーリーは、事例検討のために設定した架空のものです。

登場人物

- ① 鈴木 正美 (新任委員・50歳・女)
- ② 小林 ハツエ (一人暮らしの高齢者・85歳・女)
- ③ 田中 会長 (地区民児協の会長・委員歴30年・男)
- ④ 高橋 委員 (地区民児協の中堅委員・男)

私(鈴木正美)が民生委員を拝命したのは、今から3年前、平成22年12月1日のことでした。誕生日が12月1日だったこともあり、夫や大学生の息子からは、「50歳の誕生日を機に新しいスタートが切れるじゃないか」と祝ってもらったものです。

もともと世話好きで、人が困っているのを見過ごせないという性分もあってか、息子が小さい頃のPTA活動から始まり、自治会役員や図書館の読み聞かせボランティアなど、とにかく自分がしたいと思うあらゆることに関わってきました。

自治会長からのお誘い

忘れもしない平成22年の春。息子が一浪の末、ようやく念願の大学に進学し、私たち夫婦もほっと胸をなでおろしていた時のことです。

私が役員をしている自治会の会合で集まった際、自治会長さんから、「鈴木さん、民生委員に興味はありませんか?」と尋ねられました。もちろん、それまでにも民生委員という方々が地域にいるということは知っていました。

でも、正直なところ、当時はどのような役割をもっている方なのかまでは知りませんでした。私が返答に窮していたところ、自治会長さんは「なに、月に一度、定例会というものがあるので、そこに参加していただければ結構ですから」と言われました。

もともと、人と接することが好きだった私は、“もしかしたら、子どもたちだけではなく、お年寄りに

も、読み聞かせができるかも……”といった気持ちでお引き受けすることにしました。

右も左もわからなかった

平成22年12月1日、市民会館での委嘱状交付式を終え、あらためて地区民児協の皆さんと顔を合わせました。この道30年というベテランの田中会長を筆頭に、中堅委員の高橋さんなど、私の周りには心強い仲間がたくさんいました。

田中会長からは、「皆さんの活動は、地域住民の方々からも注目されています。どうぞ頑張ってください」と、声をかけられました。

ただ、胸に民生委員バッジと身分証をつけて、いざ活動を始めようとしたものの、最初は何をどのようにすればよいのかも全くわかりませんでした。

そこで、まずは自分の担当区域に住む方々の顔を